

研究タイトル：

干潟生態系保全と復元の可能性



氏名：	大田直友 /OTA Naotomo	E-mail：	ota@anan-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(理学)
所属学会・協会：	日本生態学会, 日本貝類学会, 日本ベントス学会, 応用生態工学会		
キーワード：	海洋ベントス, 生活史, 希少種, 干潟, 生態系保全		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸域での自然環境への配慮 ・沿岸生態系の復元 ・沿岸生態系調査 		

研究内容： 2つの人工干潟における底生生物の加入と分布パターン

1. 阿南市大潟漁港干潟の場合

干潟再生に向けた取り組みにおいて工学的な研究が先行する中、自然干潟に匹敵する生物多様性や生態系機能を有した干潟の創出の実現のためには、生態学的比較研究・実験的検証により、人工・自然干潟間における生物分布特性及びその制限要因の解明が必要である。

徳島県阿南市大潟干潟は、埋め立て工事の過程で偶然創出された人工干潟である。干潟の底質は細粒分が90%以上をしめる浚渫土と、70%以上が粗粒分からなる山土からなる。工事後10数年経過した現在、多くの希少種が確認されている。本研究では、高～中潮位域に優占し性質の大きく異なる希少種シオマネキとフトヘナタリに注目して、密度モニタリング、底質入れ替え実験、及び自然干潟との比較を行い、分布特性を比較検証している。

2. 徳島市マリンピア沖洲人工海浜の場合

徳島市北沖洲にあるマリンピア沖洲人工海浜は、高速道路用地造成により失われる既存干潟の代償として2007年3月に創出された。その目的は、環境影響評価で配慮を指摘された希少種ルイスハンミョウの生息地および親水の場の創出である。ルイスハンミョウは体長2cm程度の甲虫で、幼虫時には大潮満潮線付近に巣穴を作り、トビムシ等を待ち伏せ、捕食する。一方、成虫時には波打ち際から海浜植生域を利用するため、生息には健全な砂質干潟～海浜植生の存在が不可欠となる。事業主体の徳島県は、ルイスハンミョウに関連する海浜部のモニタリング・生態調査を継続しているが、干潟部のベントス調査は不十分であり、総合的な生態系の創出という観点からは、干潟潮間帯を含む幅広い視点からの科学的なデータの蓄積が求められている。本研究では、扱いやすいカニ・貝類のベントスに注目し、隣接する既存干潟と創出干潟において定期的に定量調査を行い、ベントス出現パターン・個体群特性等を2008年から6年間継続調査を行っている。



阿南市大潟漁港人工干潟→



←徳島市北沖洲の人工海浜(右)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	